

「ブレークスルー・クエスチョンズ(B.T.Q.)」と、 「相談的枠組み」について

ブレークスルー・クエスチョンズ (B.T.Q.) とは？

2015年1月『パッセージ・リーダー養成講座』開催期間中、野田俊作先生（日本アドラー心理学会指導者）によって開発された以下の3つの質問のこと。

1. 子どもの行動の適切な側面は何ですか？
2. あなたがこの場面で子どもに学んでもらいたいことは何ですか？
3. それを子どもに学んでもらうためにはどういう工夫ができるでしょうか？

- ・質問2は事例提供者に、1と3は事例提供者以外のメンバーにも聴く。
- ・「野田俊作の補正項」でも紹介され、全国各地で開催された講座や自助グループ等でも使用されている。
- ・「アドラー育児の歌」（野田俊作先生 作）の中では一番の歌詞として登場。
- ・「勇気づけの歌」（野田俊作先生 作）の中には、「相手のプラスを見つける」ことや、「学んでもらいたいこと」について、以下のように書かれている。

どんなときでもプラスを見
学んでもらうことを決め
よい学びかたを考えて
やさしくきっぱり育てましょう

「アドラー育児の歌」より 1番

プラスを見つける工夫をはじめよう
相手の長所をノートに書いてみる
よかった点を毎日思い出す
適切な面をいつでも考える（13）

相手に学んでもらいたいことが
なんであるのかしっかり考えて
どうすればそれを学んでもらえるか
場合に応じて方法工夫する（20）

「勇気づけの歌」より（13）・（20）



相談的枠組みについて

『相談的枠組み』というのは、『一方が教える人、一方が学ぶ人』ということについて双方が合意していること』

たとえば、一般的には、患者さんは治療者であるお医者さんからものを習おうとしている。

精神科医をしていたアルフレッド・アドラーも、臨床現場のそうした枠組みの中で、アドラー心理学の理論を構成した。

親 - 子の関係・教師 - 生徒の関係

ふつう、子どもは大人からものを習おうとしている。



『相談的枠組み』が成立している。

夫婦関係 (※他には職場での人間関係など。)

夫は妻から、あるいは妻は夫から、ものを習おうとしていないかもしれない。



『相談的枠組み』が成立していない。

『相談的枠組み』が成立していない場合には、

アドラー心理学の方法をそのままでは使うことはできない。

そうした人間関係の中で、アドラー心理学を使うのは失礼でおせっかいなことになる。

アドラー心理学は、『相談的枠組み』が成り立っている人間関係の中で使われる。

参考資料：

- ・野田俊作の補正項
- ・「アドラー育児の歌」
- ・「勇気づけの歌」
- ・アドラー心理学基礎講座応用編 テキスト
- ・第2回 関東地方会 第2部ワークショップ
「ロールプレイを使った B.T.Q. ブレークスルー・クエスチョンズ」資料

MEMO

